## 1. 20年の経過による生活程度の意識変化

## (1)「中の中」が20年経過で6割から5割弱に減少

本調査では、自分の生活程度が世間一般からみて、「上」「中の上」「中の中」「中の下」「下」のどれに入ると思うかを尋ねている。

ここでは  $45\sim55$  歳の女性 696 人を対象に、20 年前(1994 年)と現在(2014 年)の 2 時点から生活程度の意識を比較した。

図表 1-1 は、1994 年と 2014 年の生活程度の意識の分布である。生活程度が「上」と回答した人はいずれの時点においても非常に少なく、また「下」と回答した人も 5%以下にとどまっている。最も多いのは「中の中」であるが、1994 年では 6 割以上を占めていたものの、2014 年では 5 割弱になっている。1994 年・2014 年両方で「中の中」と回答した人は、全体の 35.9%であった。一方、1994 年に比べて増加したのは「中の下」と回答した人で、約 10%ポイント増えている。

生活程度の意識は「中の中」が依然として多数を占めているが、20 年を経て、若かった 頃よりも低く感じる人が出てきていることがわかる。

図表 1-1 1994 年と 2014 年の生活程度の意識



(対象:1994年~2014年に継続して回答している696人)

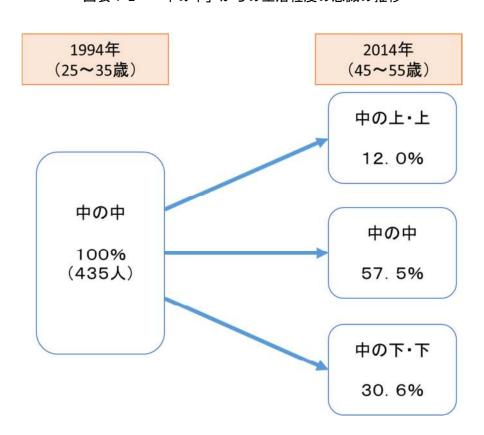
## (2)「中の中」の3割が20年後は「中の下」へ

次に、1994年に最多数だった「中の中」と回答した人たちが、20年後に「中の中」と回答しているのか、それとも他の回答をしているのか、その変化を調べた。

図表 1-2 は、1994 年に  $25\sim35$  歳だった女性 696 人のうち、1994 年に自分は「中の中」に属すると答えた人 435 人が、2014 年に「中の中」と変わらず回答したのか、それともより上(「上」または「中の上」)・より下(「中の下」または「下」)と回答するようになったのかを調べた結果である。

1994年に「中の中」と回答したのは 435人(全体の 62.5%)だったが、2014年にも変わらず「中の中」と回答したのは、そのうち 57.5%(250人)だった。一方、1994年に「中の中」と回答したが、2014年に「中の上」や「上」と回答したのは 12.0%(52人)、「中の下」や「下」と回答したのは 30.6%(133人)であった。

当初自分が「中の中」に入ると感じていた人たちの過半数は、20 年経過後も「中の中」であると感じている。3 割の人たちはより下の方に入ると感じるようになっており、上の方に入ると感じるようになった人は1割強にとどまっている。なお、「中の中」から下の評価となった人も、その多く(85.7%)は「中の下」になったという人であり、「中」の内部で相対的に下の方に入ると感じる人が増えたようである。



図表 1-2 「中の中」からの生活程度の意識の推移